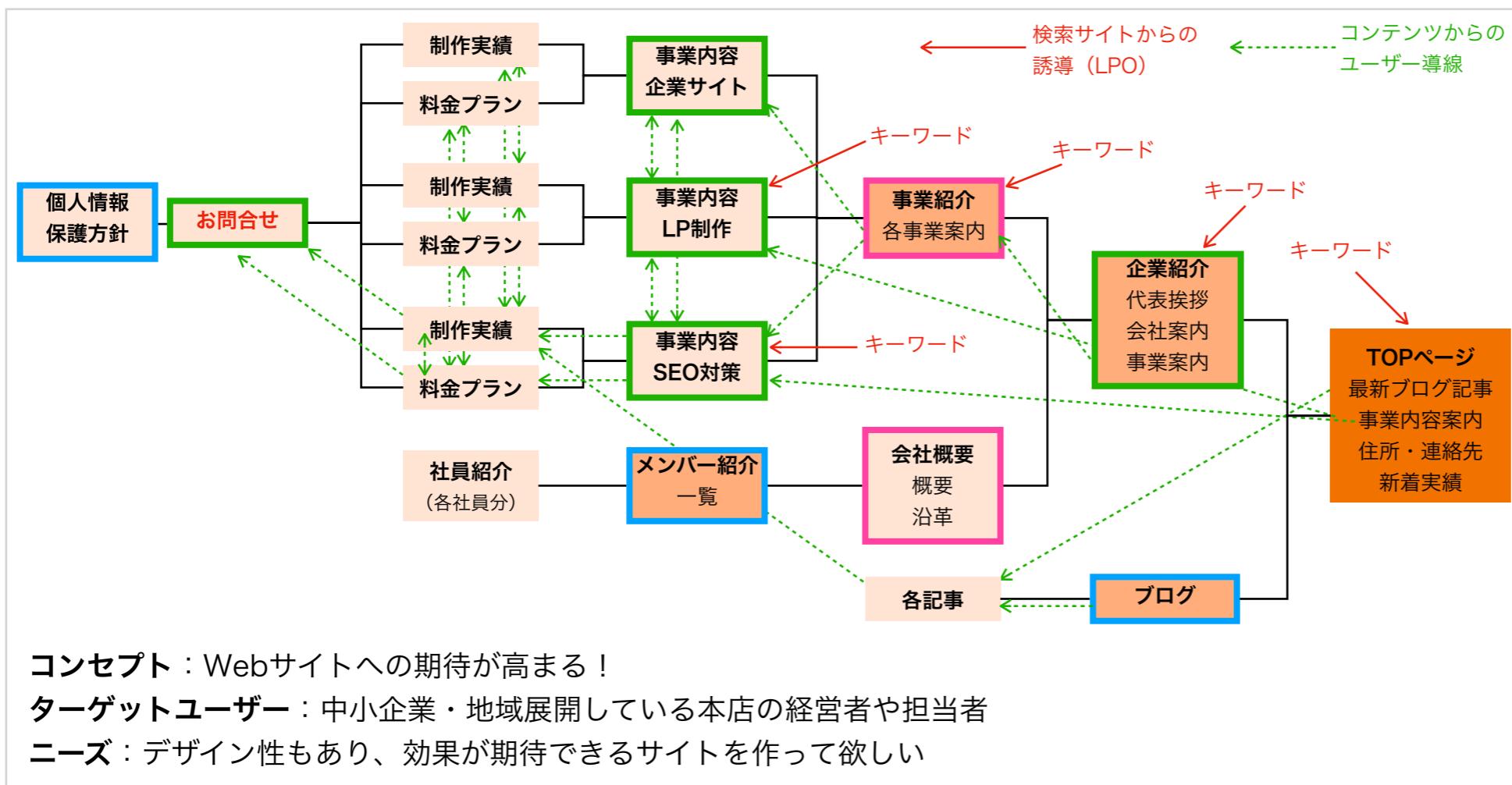


WB34
Web制作ワークフロー
プランニング 2



03 ナビゲーション設計



「現在のサイトは効果がなくて困っている」「どうせなら流行りのデザインにしたい」と考えるユーザー

↓
制作を依頼したくなるページへ案内

↓
制作依頼・お問合せ数の増加

【グローバルナビゲーション】

企業紹介・事業内容（企業サイト・LP制作・SEO対策）・お問合せ

【ヘッダーメニュー】

会社概要・事業紹介・お問合せ

【フッターメニュー】

メンバー紹介・ブログ・個人情報

サイトの目的に沿ったナビゲーションを設計

サイトマップが完成したらナビゲーション設計に作業は移行します。ナビゲーション設計中にサイトマップがブラッシュアップされることもあるので、都度サイトマップはバージョンアップさせていくといいでしょ。

ターゲットユーザーが便利に感じるナビゲーションを！

コンセプトシートに沿って「誰をどこへ案内する（したい）のか」を考えながら、サイトマップ上の各ページをピックアップすることで、グローバルナビゲーション（メインメニュー）が確定します。

コンセプトメイクで考えたターゲットユーザーとそのニーズをまとめることが重要になります。

サイトマップのブラッシュアップ

ナビゲーション設計をしていると、サイトマップの作成中に気づかなかった必要なコンテンツや不要なコンテンツが見つかることがあります。プランニングのフェーズが終わるまでは、何度もサイトマップをブラッシュアップしながら、ページデザインの準備をしておきましょう。

03 ナビゲーション設計

ナビゲーションデザインの流れ

ナビゲーション設計ができたら、ナビゲーションデザインに作業を移行します。ナビゲーションデザインの全体的な流れは、
1.メニュー項目の名称を決める 2.レイアウトを考える 3.機能を考えるといった手順で進めていくといいでしょう。

1. メニュー項目の名称を決める

メニュー項目名はリンク先の内容が分かるようにしなければいけません。サイトのコンセプトやクライアントや業種のイメージに沿った名称を考えます。

例えば、飲食店などの商品となる[メニュー]という項目であれば、[お食事]や[お品書き（おしながき）]など、ユーザーが迷わない表現を考えます。

また、サイトのトップページを表すメニュー項目の表現は[TOP（トップ）]よりも[HOME（ホーム）]の方が理想的です。「トップ」は、ページの最下部から最上部へ戻るリンクで使用するため、区別が必要です。

2. レイアウトを考える

ワイヤーフレームを作成してページの骨組みを考えます。この段階のワイヤーフレームでは<header> <nav> <main> <footer>といったページの基本構成を考え、各ページのレイアウトは別の作業で行います。

一般的なナビゲーションには、「グローバルナビゲーション（以下ナビ）」「ヘッダーナビ」「フッターナビ」「サブナビ」「ローカルナビ」があります。



① ヘッダーナビゲーション
アクセス頻度が少ないページや主要なページへのリンク

② グローバルナビゲーション
アクセス頻度が多いページや主要なページへのリンク
重要度や種類によってデザインも異なる

③ サブナビゲーション
カテゴリ内に各ページへ誘導するためのリンク
同じカテゴリ内にある他のページへ誘導する役割がある
グローバルナビにカーソルを合わせると表示される「ドロップダウン型」内はローカルナビのひとつ

④ フッターナビゲーション

アクセス頻度が少ないページで主要なページへのリンク
スクロールによってグローバルナビが表示されなくなった場合に、グローバルナビと同じ内容を掲載することもある

03 ナビゲーション設計

レイアウトパターン

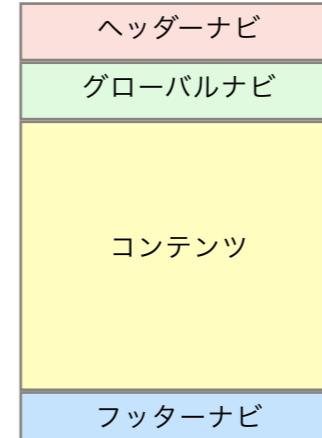
基本のレイアウトパターンは3種類あります。

1. 上部メニュー型

色や画像、余白などビジュアルで印象や雰囲気を伝えるのに最適なレイアウトです。

グローバルナビは、ヘッダーの下部かヘッダーの中に含まれることが多く、最も一般的なレイアウトの1つです。

上部メニュー型



スマホ/タブレット/PC



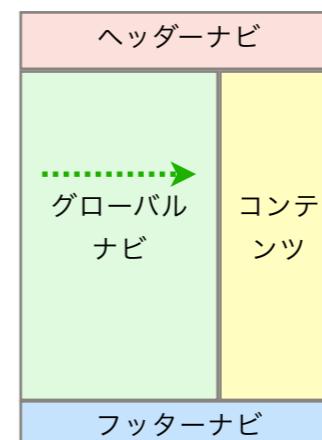
タブレット/PC

2. 左サイドメニュー型

メインのコンテンツ幅が狭くなるため、文章が読みやすくなり、ビジュアルよりも文章で伝えるのに最適なレイアウトです。

スマートフォンの場合、画面幅が狭くなるため、左から引出されるドロワー（スライド）型のメニューを使って表示します。

左サイドメニュー型



スマホ



タブレット/PC

3. 逆L字メニュー型

ページ数が多い、または階層の深いページを持つサイトに適す他レイアウトです。

グローバルナビに大カテゴリ、サブやローカルナビに中・小カテゴリのトップページやアクセス頻度の高いページへ誘導でき、操作性が向上します。

スマートフォンの場合は、画面幅が狭くなるため設計が難しくなり、ドロワー型メニュー内でアコーディオン（開閉）型メニューを使ったり、フッター部分にグローバルナビをアイコン型で配置し、サブやローカルナビをドロワー型で表示するなど、工夫が必要になります。

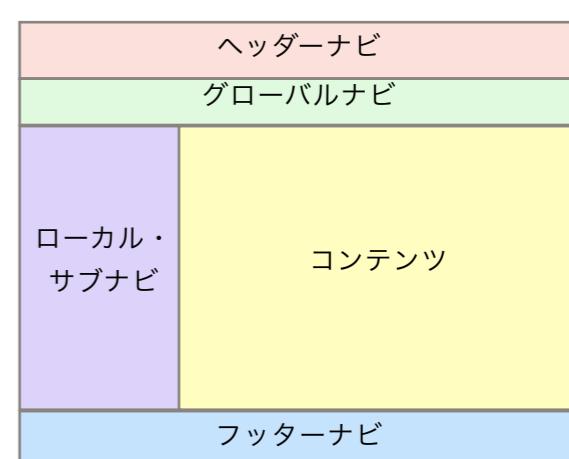
逆L字メニュー型



スマホ



スマホ

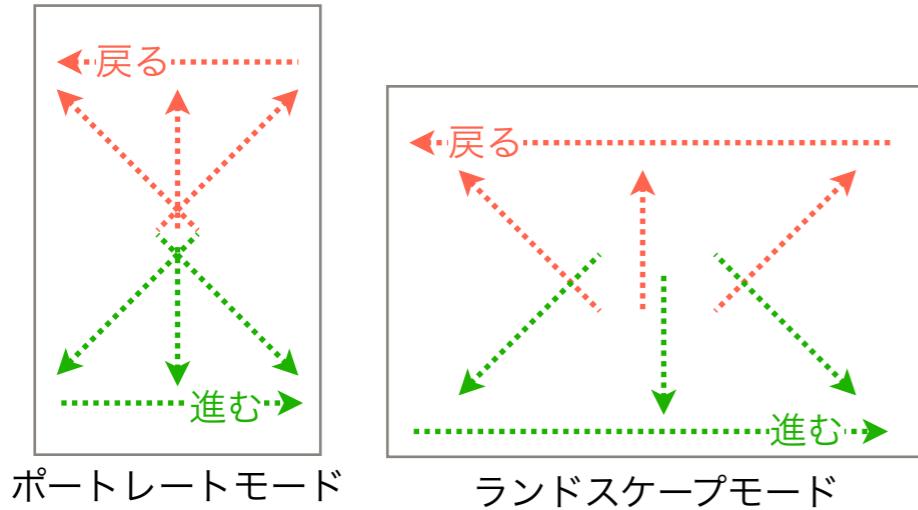


タブレット/PC

03 ナビゲーション設計

レイアウトの応用

ユーザビリティを高め、操作性を上げるには、色・形・配置場所・視線の動きなどの、心理的な操作感覚を取り入れる必要があります。



1. 目的のページ探しやすい上部メニュー型

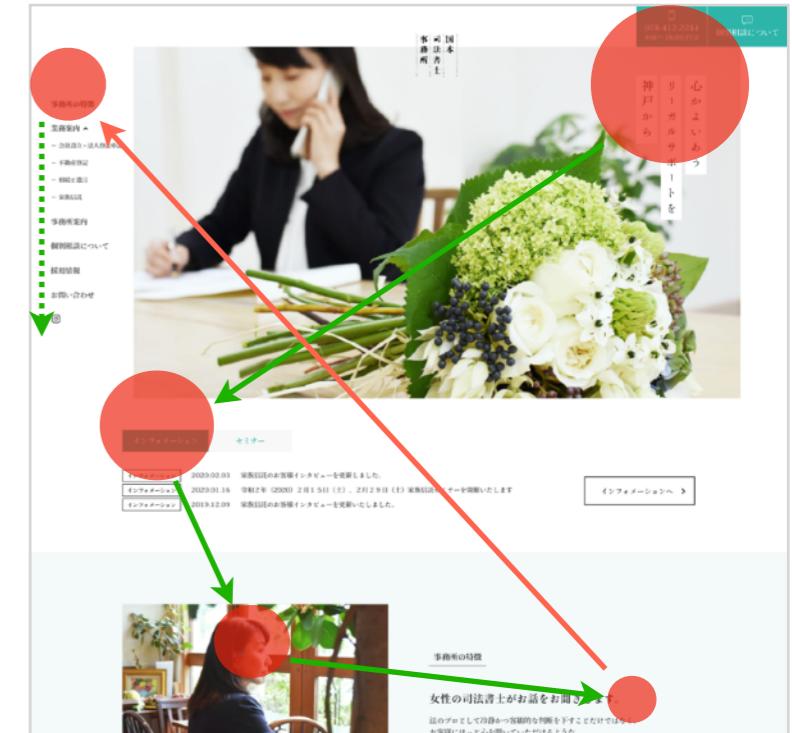
基本は左から順番に選びやすいが、「戻る」心理的な感覚が働き、操作感覚がリセットされるため、左側から好きな項目を自由に選びやすい。また、ナビが固定されると視線移動距離が短くなり、順番に選びやすくなる。



2. 目的のページ探しやすい左サイドメニュー型

基本は上から順番に選びやすいが、「戻る」心理的な感覚が働き、操作感覚がリセットされるため、上から好きな項目を自由に選びやすい。また、ナビが固定されると視線移動距離が短くなり、順番に選びやすくなる。

国本司法書士事務所



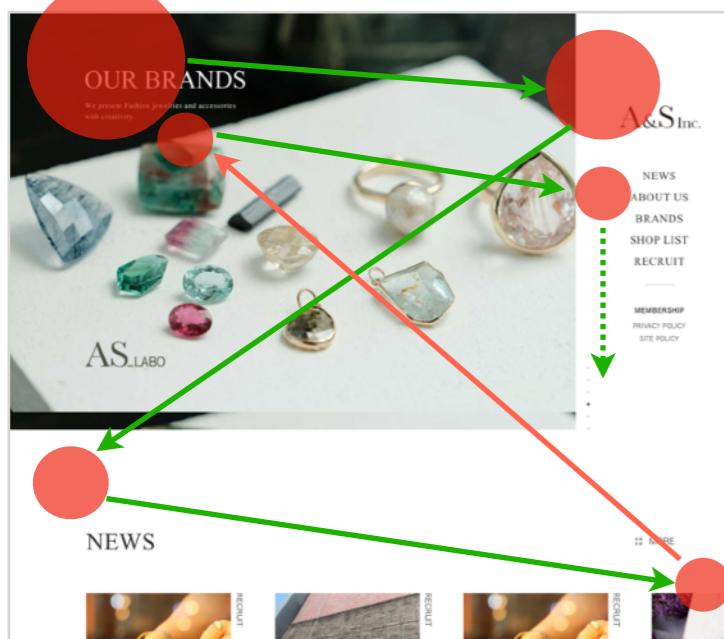
3. 目的のページ探しやすい左サイドメニュー型

スマホなどでドロワー型を使った左サイドメニューは、固定表示されているため、比較的上から順番に選びやすい。左や上からスライド表示すると自由に選びやすい感覚が働きやすい。（左上のボタンはメニューの使用頻度が低い時のみ）

03 ナビゲーション設計

4. 意図した順番に誘導しやすい上部メニュー型

誘目性の高い大きな写真などの下に配置するナビや、グローバルナビの下部に表示されるサブナビなどは、視線移動距離が短いほど左から順に選びやすく、情報も把握しやすくなる。



5. 意図した順番に誘導しやすい右サイドメニュー型

視線移動距離が長くても、右側にあるグローバルナビまで視線が進むため、上から順に項目を選びやすい。右手で操作することも関係し「進む」心理的な感覚が働きやすい。

6. 意図した順番に誘導しやすい右サイドボタン

右上に配置されたハンバーガーボタンは、左上よりも「進む」心理的な感覚が働きやすく、上から順に選びやすい。



モーダルウィンドウで表示



7. 意図した順番に誘導しやすい下部メニュー型

アプリやスマートフォンのOSでも採用されている下部固定のナビは、アイコンと一緒に表示することで視認性もよく、操作性もいい。サイト内の各ページを順に案内することを目的としたサイトに向いている。

もみの木薬局

03 ナビゲーション設計

3. 機能を考える

グローバルナビや、ページ内のコンテンツで機能するメニューが多数あります。目的に合わせたナビゲーション機能を選んで設置する必要があります。

・ ドロップダウン（プルダウン）メニュー

グローバルナビでよく使われる表示方法の1つ
メニューの下に現れる下層ページへ移動可能なリンクメニュー
で、主要カテゴリ内に下層ページまたはカテゴリが複数ある場合
に使用する。

・ アイコン（付き）メニュー

リンク先がイメージしやすいアイコンと一緒に表示したメニュー
視覚的にも認知しやすく、知覚しやすいのが特徴。

アイコンだけでもリンク先が分かるのアイコンメニュー



ドロップダウンはメニュー項目ごとに下層ページへのリンクが現れる

・ パンくず（ブレッドクラムやトピックパス）メニュー

現在表示されているページの
位置（階層）を示すメニュー
ページ数が多く階層の深いサ
イトで使うと効果的。

パンくずで上層ページ・カテゴリへの
アクセスが容易に



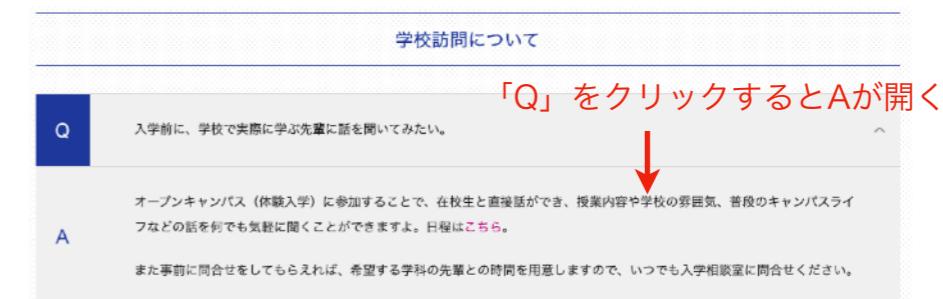
・ タブメニュー

他のページへ遷移することなく、同じページ内の同じ場所でコン
テンツを切り替えて表示するためのメニュー。



・ アコーディオン（開閉）メニュー

クリックやタップで開閉するメニューで、主にコンテンツを表示
させるメニュー。
Q&Aのようにボリューム多く、テキストが多くなるページでの
省スペース化と、見難さを軽減できる。



03 ナビゲーション設計

・ ハンバーガー（ドロワー）型メニュー

メニューを画面の端（上下左右のいずれか）から引き出して表示するタイプのメニュー。
スワイプ操作で表示させたり、ハンバーガーボタンを押して表示することが多い。



・ ステップ型メニュー（プログレスチャート）

お問い合わせや購入フォームなど、複数のステップからなるページに使用される。

▷ 資料請求

・ ページ内リンクメニュー

同一ページ内のコンテンツへに移動するためのメニュー。
各移動先のコンテンツの終わりや、ページの最下部にも、ページの先頭などに戻るページ内リンクも併用する。

・ ロールオーバーリンクメニュー

メニュー項目名やボタンの上にカーソルを合わせると、色や画像が変わる機能。
リンク箇所であることが視覚的に伝えられる。

04 UI (ユーザーインターフェイス)

ユーザーインターフェイス

機械・コンピュータとその利用者の間で、**情報のやり取り**を行う部分

(表現や機能の考え方 ⇒ インターフェイスデザイン)

※ インターフェイス … 境界、中間、接地点

インターフェイスには様々な種類があります。

1. アプリケーション・プログラミング・インターフェイス(API)

OSやソフトウェアを利用するアプリケーションを作るための、データ形式や手順を定めた規約。

2. ソフトウェア・インターフェイス(SI)

APIなどソフトウェア間の通信を行う際の、情報の渡し方などを決めたもの

3. ハードウェア・インターフェイス(HI)

USBなど、ハードウェア間の通信を行う際の接地部分

4. ユーザー・インターフェイス(UI)

利用者が機器やコンピュータを操作する部分

5. キャラクター・ユーザー・インターフェイス(CUI)

キーボード入力のみでコンピュータを操作するインターフェイス
システム開発用のプログラムを書くためのコマンドラインなど
(WinのコマンドプロンプトやMacのターミナルなど)

6. ボイス・ユーザー・インターフェイス(VUI)

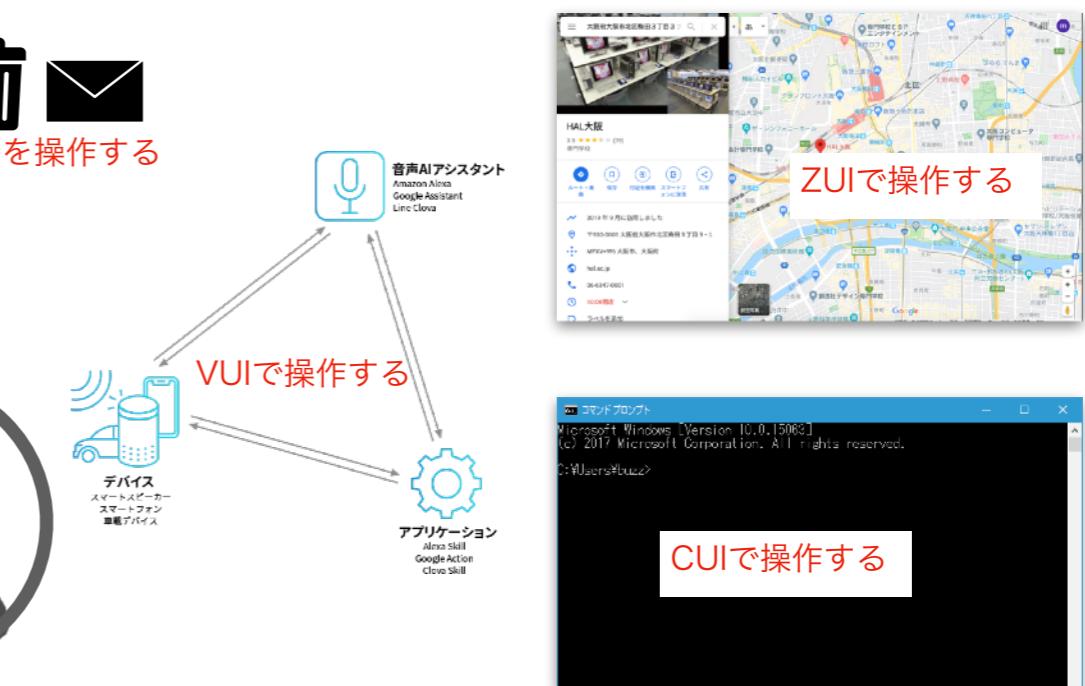
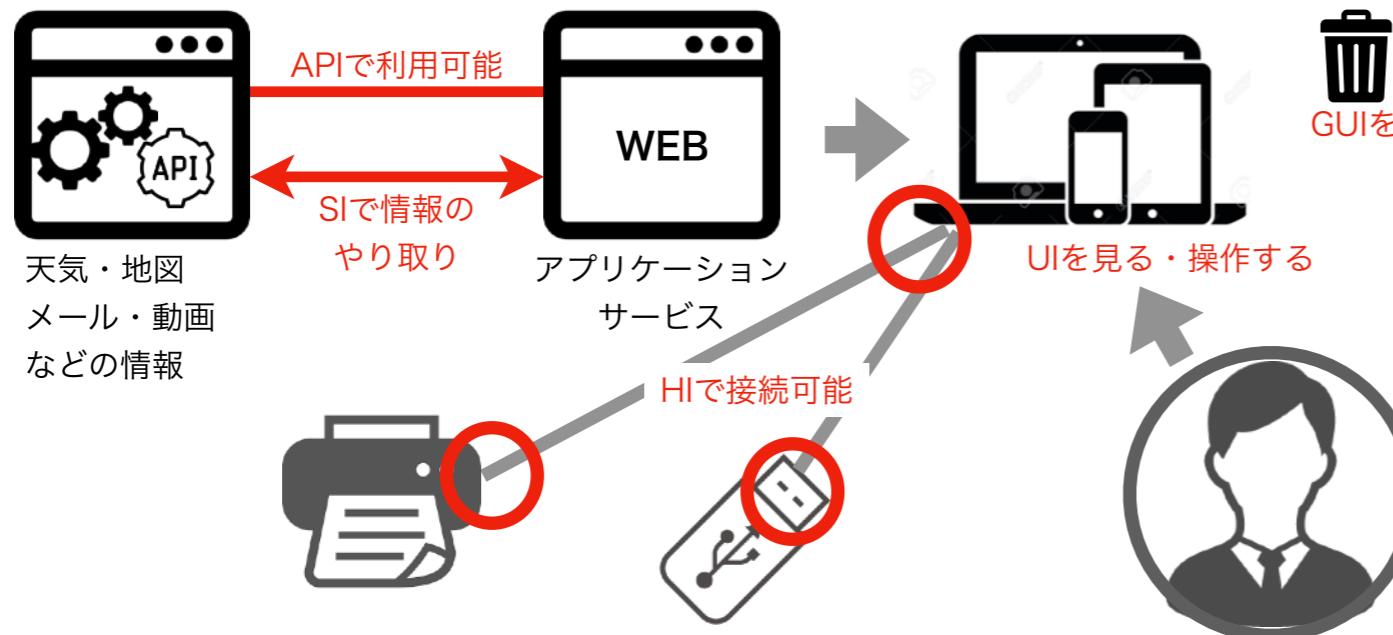
スマートフォンやスマートスピーカーなど、音声で操作できる環境

7. ズーミング・ユーザー・インターフェイス(ZUI)

表示領域を拡大縮小し、詳細を見たり全体を概観するためのグラフィカル環境

・グラフィカル・ユーザー・インターフェイス(GUI)

画面上のウィンドウやアイコン・ボタンなどのグラフィックを、マウスなどのポインティングデバイスや指などで操作するインターフェイス。



04 画面遷移とUI Flows

サイトマップからUIを考えるのはNG

ナビゲーションメニューは、各ページで固定表示されるようなナビゲーションのため、サイトマップから設計しやすくなります。

しかし、各ページごとに異なるナビゲーションを考える際は、[37Signals \(現 Basecamp\)](#) で紹介されたUI設計の手法「UI Flows」を使うと、各ページごとにどのようなUIが必要かを考えやすくなります。

サイトマップや画面遷移図からUIを考えるよりも、必要なUIを視覚的・また直感的に把握しやすくなります。

モバイル用のアプリでは、必須のUI設計と言えるでしょう。

UI Flows

ユーザーが「見るもの」と「操作すること」から「操作の結果」を、フロー図にしてまとめていきます。

画面遷移図よりも画面の流れが理解しやすく、ワイヤーフレームやラフデザインの段階でプロトタイピングが行え、デザインを作成する前の段階で、ユーザビリティの高いUIを設計することができます。

※ guiflowというツールもあるが、エクセルなどを使用する方が視覚的に見やすい

